

登録コード	J9030100	開講年度	2026				
授業科目	社会科学のための基礎力演習					担当教員	WU PO TSANG
英文授業名	Academic writing skills for social science research					副担当	
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限	金曜・4時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経:1年/法:1年
講義室	経法4 0 2 演習室		授業区分	演習	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	経法20加 現代社会が抱える課題に対して、社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し、自然科学と協働しながら課題解決に導く力を身につける。 専門知識を応用・実践する力として、その基本となるアカデミック文章を理解する能力を身につけるのみならず、関連する分野の論文を正しく理解して、自分の意見を建設的に応用できる能力を養い、経済学または法学などの社会科学分野において生じる問題について、専門的知識を基礎にしたロジック的な論述文を提示することができるようになる。						
	経法23加 (2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済 専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。 専門知識を応用・実践する力として、その基本となるアカデミック文章を理解する能力を身につけるのみならず、関連する分野の論文を正しく理解して、自分の意見を建設的に応用できる能力を養い、経済学または法学などの社会科学分野において生じる問題について、専門的知識を基礎にしたロジック的な論述文を提示することができるようになる。						
	環境問題, 少子高齢化, 自然・経済リスクの管理, コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて、現実に関連領域との協力が必要となる。このために、関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。 専門知識を応用・実践する力として、その基本となるアカデミック文章を理解する能力を身につけるのみならず、関連する分野の論文を正しく理解して、自分の意見を建設的に応用できる能力を養い、経済学または法学などの社会科学分野において生じる問題について、専門的知識を基礎にしたロジック的な論述文を提示することができるようになる。						
	経法23加 (2026改)・総合法律, 経法23加・総合法律 環境問題や、企業や行政の組織内において、日々生起する諸問題について、理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち、総合的に解決していくことのできる能力を身につける。 専門知識を応用・実践する力として、その基本となるアカデミック文章を理解する能力を身につけるのみならず、関連する分野の論文を正しく理解して、自分の意見を建設的に応用できる能力を養い、経済学または法学などの社会科学分野において生じる問題について、専門的知識を基礎にしたロジック的な論述文を提示することができるようになる。						
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	この科目は、社会科学のレポートや論文を書くための基礎となる日本語文法、及び大学レベルのアカデミック・ライティングスキルの習得を狙いとする。尚且つ、授業の受講及び実践的な練習を通じて、レポートを書くための文章の表現力、並びに、論文を書くための考察力・構成力を身に付けることができる。 その目標を達成するために、この科目の前期では、基本スキルの養成に重点を置いて、母語が日本語でない学生が誤りやすい項目を中心に文法基礎の再確認を行う。後期では、大学でのレポート作成や論文執筆のスキルアップを図るトレーニングを行う。また、レポートや論文に対応する表現の技術を始め、新聞・雑誌の記事によく見られる語彙や表現、そして、執筆にあたり求められる論証のスキルについても学ぶ。授業では、読み手が理解・納得する論理的な文章の書き方、また、そのために必要な表現・構成・展開の技量について、受講生と一緒に考えていく。なお、学生の実際のレベルや状況に応じて、授業計画を調整することもある。						
(5)授業計画	(前期) - ガイダンス - 書き言葉の文体と表現 - 複文の適切な使い方 - 名詞節「こと」と「の」の使い分け - 語や節の名詞化 - 語彙の選択と使い分け - 文頭と文末との呼応 - 助詞相当語の使い分け - 中間テスト - 中間テスト解説 - 助詞の使い分け - 他動詞・自動詞(使役形・受身形) - ル形・タ形・テイル形・テイタ形 - 指示詞「こ」と「そ」の使い分け - 接続詞・接続表現の使い分け - 期末テスト (後期) - 後期ガイダンス 「のだ文」の使い方 - 意見を述べる文末表現の使い分け						

(5)授業計画	4. レポート・論文のイロハ 5. 問いの立て方とアウトライン作り 6. 序論の書き方 7. 正確な言葉選びと正確な表記 8. 参考文献の調査と引用の方法 9. 本論の書き方とパラグラフ・ライティング 10. 結論の書き方 11. 語彙と表現力：体や身近なものに関連のある語彙と表現 12. 語彙と表現力：戦いに関連のある語彙・表現 13. 語彙と表現力：社会的背景を持つ語彙・表現 14. 語彙と表現力：もとの形から変化している語彙・表現 15. レポート・論文：初稿検討会 16. レポート・論文：成果発表。授業アンケート
(6)成績評価の方法	・前期の中間・期末テスト（合計50点） 中間テストは前期教科書の第7課の授業終了週の翌週に実施し、期末テストは学部の定める日程に実施する。 ・後期に与える課題とレポート（合計50点） 原則、後期に配布するワークシート（全部で4回程度）に記入することを課題とし、また、後期のレポートの課題は後期の第5回までに発表する予定である。
(7)成績評価の基準	この科目は、筆記試験及び課題・レポート等を併用しているため、以下の基準でそれぞれを評価する。 筆記試験について、授業で提示した日本語文法への理解度を測るためのテストを用いて、最低限の理解があった場合（60点を目安とする）を「合格水準にある」とし、最低限の理解を有して、尚且つ間違いやすい文法を概ね把握できた場合（70点を目安とする）を「やや上にある」とし、授業の全内容を概ね把握できた場合（80点を目安とする）を「かなり上にある」とし、それより優れた場合（90点を目安とする）は「卓越している（秀）」とする。 課題・レポートについて、課題に取り組む姿勢が見えて、授業で提示した内容を最低限に押さえたと思われる場合を「合格水準にある」とし、最低限の理解を有して尚且つ、与えられた課題に授業で学んだ知識を運用したと認められる場合を「やや上にある」とし、授業の全内容を概ね把握でき、授業で提示した内容を授業の目標を照らして適切に応用したと認められる場合を「かなり上にある」とする。それより優れて、社会科学のレポートや論文を書くための文章の表現力や論文を書くための考察力・構成力を身に付けたと認められる場合は「卓越している」とする。
(8)事前事後学習の内容	予定された範囲の教科書の内容を読んでおくことや、教科書にある練習問題を用いて事後学習すること（予習や復習は、それぞれ30分から1時間程度かかると予想される）。また、授業中にワークシートを配布する場合があります、それに記入して教員の指定した授業の日に持参や提出すること。ワークシートはレポート作成と連動するものであるため、教員によるワークシートに対するフィードバックを参考にし、事後学習内容として、それをブラッシュアップすることをお勧めする。
(9)履修上の注意	この授業は外国人留学生在が経済学・法学を学ぶ上で必要な日本語能力の養成を目的としていることに留意したうえで履修してください。また、学生の実際の語学力や学習状況に応じて授業計画を調整することがあり、その評価を正確にするために履修者の出席への協力が必要であることを併せてご注意ください。
(10)質問、相談への対応	この科目に関する質問に限らず、留学生活についての相談も受け付ける。経法学部研究棟2階の国際交流室で対応する。
【教科書】	小森万里・三井久美子著「ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法」（くろしお出版）ISBN：9784874247181
【参考書】	澁川晶・高橋紗弥子・庵功雄著「留学生のためのジャーナリズムの日本語」（スリーエーネットワーク発行）ISBN：9784883197156